東京蜘蛛談話会
談話会通信
2022年
5月15日
No.164

ヒトエグモ！を獲った

貞 元 己 良

ヒトエグモについては，近畿地方の方々に話題にするような話ではありませんが，東日本の研究者にとっては，現物を見たことがない種類のクモです．本年，令和3年11月1日と2日に妻の趣味である『御朱印帳』収集の為，京都に行く機会がありました．私自身は，観光地へ行っても見学には背を向けてクモを採集している方が性分なので普段，妻は私など誘わないものの，たまたま一緒に行く予定の娘が仕事の都合で行けなくなったので急遽，私を指名しました．私も京都に行けばヒトエグモが採れるかもしれないと思いつつ，二つ返事で了承しました．

1日目は，朝5時半に千葉の自宅を出発して9時半には京都に着いていました．旅の目的は，比叡山延暦寺で催される特別展示を拝観することにありました．京都へは何度も来ている妻は入念に行動計画を立てており，クモを採集する余裕も与えられず分刻みで，次の場所，次の場所への移動だけでした．宿泊施設は，京都駅中にあるホテル「グランヴィア京都」で妻はダイヤモンド会員の為，最上階の特別室が常宿のようでした．

2日目は，京都駅から地下鉄の烏丸線に乗り「鞍馬口」駅で下車しました．駅から約10分歩き，山門は比叡山を望む『額縁門』としてマニアには有名な場所らしいです．目的地の「天寧寺」は街中の住宅地の中にありました．妻は興奮して一生懸命スマホで写真を撮りまくっていました．私は，それを尻目に境内のクモを採集しようと門をくぐると，門の内側にヤチグモ類のような袋状の巣を発見．持っていたピンセットで中を探ったところ，勢い良く黒い塊が飛び出してきました．『クロガケジグモ雌成体』でした．流石，関西．クロガケジグモは普通種ですね．

妻の目的が終了し駅に向かって歩いていたところ，妻が「途中に神社があるヨ．寄っていく？」と言うので即答で「行く！」回答し神社に立ち寄りました．神社名は『上御霊神社』という住宅地の中にポツンと建つ，割と大きくない神社でした．石灯籠も幾つか見えたので，隙間にピンセットを差し込むも目張りされ隙間はありませんでした．30分ほどで，クモの採集に没頭する夫に嫌気のさした妻が「そろそろ，京都へ土産物を買いに行こう．」と誘うも，夫は無視．石灯籠の上に置かれた石が気になり，1つ親指と人差し指で摘まんで持ち上げたところ，小さな蟹のような形の非常に敏捷な動きをするク

モが 4 匹，四方八方に走り回る姿を確認しました．『ヒトエグモの幼体』でした．数はカウントしていませんが多分，20 個体以上は見ました．幼体 1 頭だけ，サンプルとして獲りました．

後日，自宅で KISHIDAIA にあった藤野義人氏の「ヒトエグモの生態的知見」と題する論文を読み返し，偶然にも藤野氏が調査している場所と同じであることが判明しました．荒らすつもりは全くありませんでした．紙面を借りてお詫び致します．

入退会は：

事務局　初芝伸吾　〒186-0002 東京都国立市東 3-10-8

コンフィデンス高垣 105 有限会社エコシス

E-mail：hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

通信原稿投稿先：

谷川明男　〒247-0007　横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416

E-mail：dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

通信の原稿締め切りは，4 月末，8 月末，12 月末です．

KISHIDAIA 原稿投稿先：

谷川明男　〒247-0007　横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416

E-mail：dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

ファイルサイズが大きくてメール添付できない時には，ドロップボックスやグーグルドライブの転送機能・共有機能，宅ふぁいる便やデータ便などの転送サービスをご利用ください．（これまで利用していた Yahoo Box は，アップロード機能を廃止してしまいましたので利用できません．）

キシダイアの原稿締め切りは，6 月末日と 12 月末日です．

本年度からは 6 月末，12 月末を目安とし，予算枠内のページ数まで先着順といたします．

東京蜘蛛談話会の会費は，一般 4000 円，学生 1000 円です．

（しばらくの間会費を値下げしておりましたが，2022 年度より元の水準に戻し，一般 4000 円，学生 1000 円といたします．）

会費は郵便振替口座　00170-8-74885　東京蜘蛛談話会へお願いします．

会費のことは：会計担当　須黒達巳

〒150-0013 渋谷区恵比寿 2-35-1 慶應義塾幼稚舎

TEL：080-5683-2765　E-mail: t.s.schlegelii@gmail.com

2021 年度決算　　東京蜘蛛談話会

収入の部　　2022 年 4 月 1 日

項　目	決算額(¥)	備　考
1.会費	312,000	
内訳　a.21 年度会費	98,000	欄外 1
b.22 年度以降前納会費	206,000	
c.20 年度以前未納分会費	8,000	
2.寄付	0	
3.雑収入	0	
4.別刷り代	64,385	119,120 号;欄外 2
5.利息	5	
6.クモ基本 60 売上	0	
収入合計	376,390	
7.繰越金		
(1)20 年度以前　前納会費	342,400	
内訳 a.21 年度分	259,800	
d.22 年度以降分	82,600	
（会費額改定のため一括で表示）		
(2)特別会計（プール金）	1,099,727	
繰越金合計	1,442,127	
合計	1,818,517	

支出の部

項　目	決算額(¥)	備　考
1.会誌作成	657,489	119,120 号
2.会誌発送	34,692	
3.別刷り作成･発送	86,124	119,120 号
4.談話会通信	51,899	162,163 号
5.事務局等通信費	50,680	欄外 3
6.事務用品等	0	
8.予備費	0	
支出合計	880,884	
9.繰越金		
(1)22 年度以降の前納会費	342,400	
内訳 a.22 年度分	234,900	
b.23 年度分	34,700	
c.24 年度分	13,000	
d.25 年度分	6,000	
(2)特別会計（プール金）	649,033	
繰越金合計	937,633	
合計	1,818,517	

繰越金の預け先：郵便貯金（普通）	¥854,673
振替口座	¥64,027
現金	¥18,933
合計	¥937,633

欄外 1：21 年度会費は，前納分 259,800 円とあわせて 357,800 円受領しました.
欄外 2：1 件(21,739 円)著者からの入金が年度内に間に合わず，次年度の収入に回ります.
欄外 3：昨年度事務費を担当者に渡せなかったので，2 年度分を送金しました.

以上，報告いたします．2022 年 4 月 1 日　会計 須黒達巳　印
適切に会計処理されています．2022 年 4 月 15 日　会計監査　野口奨悟　印

2022 年度予算　　東京蜘蛛談話会

収入の部　　2022 年 4 月 30 日

項　目	金　額(¥)	備 考
1. 22 年度会費	888,000	4,000 円*209 人+1,000 円*52 人
内訳 a.前納分	234,900	
b.22 年度納入予定分	653,100	
2.寄付	0	
3.雑収入	0	
4.別刷り代	71,739	欄外 1
5.利息	10	
収入合計	959,749	
6.繰越金		
(1)23 年度以降の前納会費	53,700	
内訳 a.23 年度分	34,700	
b.24 年度分	13,000	
c.25 年度分	6,000	
(2)特別会計（プール金）	649,033	
繰越金合計	702,733	
合計	1,662,482	

支出の部

項　目	金　額(¥)	備　考
1.会誌作成	800,000	400,000 円×2 回（121,122 号）
2.会誌発送	35,000	
3.別刷り作成･発送	50,000	
4.談話会通信	90,000	30,000 円×3 回(164,165,166 号)
5.事務費・通信費	45,000	欄外 2
6.事務用品等	10,000	
7.総会・例会	10,000	10,000 円×1 回
9.予備費	10,000	
支出合計	1,050,000	
10.繰越金		
(1)21 年度以降の前納会費	53,700	
内訳　a.23 年度分	34,700	
b.24 年度分	13,000	
c.25 年度分	6,000	
(2)特別会計（プール金）	558,782	
繰越金合計	612,482	
合計	1,662,482	

欄外 1：前年度に著者から未徴収の 21,739 円を含みます.
欄外 2：事務局・会計・編集各 5,000 円，通信 6,500 円，観察会・合宿事前調査費各 10,000 円，
通信費・振込手数料等 3,500 円

2021 年度会員動向
2021 年 4 月 1 日時点の会員数　255 名
入会 11 名，退会 5 名
2022 年 4 月 1 日現在の会員数　261 名（一般 209 名，学生 52 名）

多摩だより（5）滝山城址のトゲグモ

新 海　明

クモ採集を始めた頃の珍蛛たちと言えば，トリノフンダマシ類，イセキグモ類，カトウツケオグモやキジロオヒキグモなどだった．それと同じくらいの価値で，採集をするとクモ仲間が騒いだのがトゲグモだ．南の国を彷彿とさせるその風貌がクモ屋の心をざわつかせるのかもしれない．

思い起こすと，私がトゲグモを初めて見たのは，なんとクモ研究を始める前だった．実家の写真館に勤務していた従業員の一人（そういえば，この頃には家族以外に従業員が数名も勤務していた）のお宅に一泊二日で遊びに行った時だった．五日市の秋留（今では「あきる野」と表記する）にあった，このお宅からサマーランドを経て滝山城址までハイキングをしたのだ．今では考えられないが，この距離を歩いた．おそらくこの地を選んだのは兄だったのだろう．私は従業員のご家族の子供たちと一緒に長い道のりを戯れていただけだった．根性なしの私は，この道のりに飽き飽きして不平不満たらたらで，やっとの思いで滝山城址にたどり着いた覚えがある．

今になって考えれば，古城の空堀に相違ないのだが，当時は知るはずもなく，谷間に沿った道を歩いていると，トゲグモがうじゃうじゃいることに気付いた．しかし，どれも見上げるほどの高さに網を張っていて容易に捕れそうになかった．おそらく，比較的低いところにいたトゲグモを落ちていた木の枝か何かでゲットしたのだろう．兄の差し出した管瓶の中にうごめく，その容姿に，私は魅了された．「こんなクモが日本にいるのか」．お腹はとげがいくつも飛び出し，触ってみると固かった．白黒に染め抜かれた模様もなんとも玄妙だった．樹々の間をよく見ると，そこにも，あそこにも次から次へとトゲグモがいた．「珍しいクモがこんなにたくさん生息しているなんて！」．トゲグモとの初遭遇の印象だった．

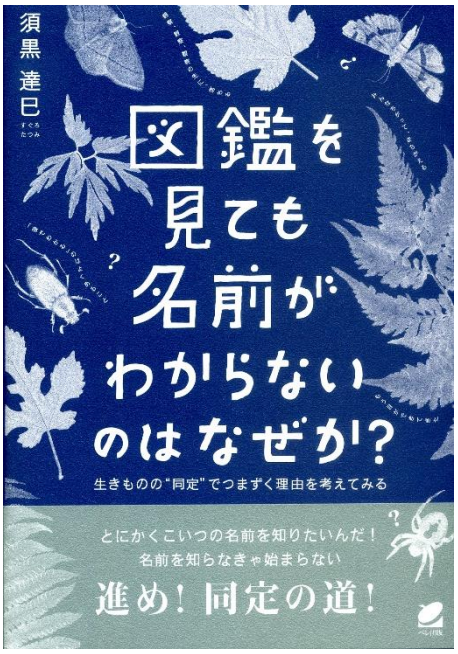
その後，クモの採集に目覚めた 1968 年．卒業した小学校のクラス会の幹事となって，裏高尾の小仏から景信山へのハイキングを計画したことがあった．この小仏バス停から峠を経ずに景信山へと直登する登山道の林の中で，またもトゲグモの大群と出会ったのだ．「なんだ，トゲグモはいっぱいいるんだなぁ」．当時の私のつたない感想だった．驚いたのは，その数年後に，このコースを再び目指したときのことだった．「トゲグモは消えていた」のだ．このことを兄に伝えると「滝山城址のトゲグモも消えた」という．そして「どうもトゲグモは一斉に出て，一斉にいなくなる気がする」というのだ．

私は，それ以前に裏高尾の小下沢林道のザリクボという場所で，たくさんいたホシミドリヒメグモが，翌年にはほとんど姿を消してしまったことを経験していた．ホシミドリの場合は，その色彩変化を記録しようと，片っ端から「採集した」ため，「これが絶滅につながったのではないか」と，いたく反省したものだ．小仏のトゲグモは採集をし

ていなかったのにやはり「消えた」.

後年になり，ジョロウグモの個体数の変動の大きさを知り，トゲグモやホシミドリさらにもう一つ加えるならスズミグモなどの個体数の激増激減は，クモ一般に普通に起こっている現象ではないかと考えるようになった．惜しむらくは「数」の記録を当時は残していなかったことだ．「どんなことも記録する」．そして，できたら「報告する」ことが，とても大切だということを，滝山城址で出会ったトゲグモは，私に思い知らせてくれたのだった.

新刊紹介



ISBN：978-4-86064-676-9
2200 円　ベレ出版

ISBN：978-4-12-102693-4
1100 円　中央公論新社

著者自刊　2140 円（含送料）

谷川明男まで郵送先をお知らせください.

dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp